

桃子だより

2020 summer



出川桃子後援会

島根県松江市新雑賀町 8-12

TEL・FAX/ 0852-21-6564

Email/degawamomoko@gmail.com

未来のために何をなすべきか
〜新庁舎整備事業について〜

新庁舎整備に対する私の思い

現在、松江市においては新庁舎整備事業が進められております。この事業は、松江百年の大計であり、現在の市民はもちろん、次世代の市民にも大きく影響を及ぼす一大事業であります。

私は、令和元年の春まで新庁舎建設特別委員会に所属していましたが執行部と質疑応答を重ねる度に、様々な疑問や違和感を持つに至りました。

現地建て替えによる新庁舎建設の工期は8年近くを要し、一度建設されてしまえば、向こう70年は

使うこととなります。また、事業費150億円のうち50億円は市民の貯金、残りの100億円は、将来世代の借金で賄い、令和40年まで借金の返済を続けなくてはなりません。

新庁舎を使う主役は、今の子どもや孫たちの世代であることを考えますと、未来のために自ら今何を為すべきか、大きな責任を感じ、2018年9月議会、2019年12月議会において、新庁舎整備事業について質問を致しました。

新庁舎建設は、2018年の基本構想から始まり、基本計画、基本設計と進捗し、現在、実施設計に入っております。昨年11月に公表された基本設計では、当初の概算事業費120億円が、25%、30億円増額し、150億円になるこ

とが分かりました。

市の説明では、この増額は、オリンピックなどに伴う建設コストの上昇や詳細な積算によるもので「致し方ない」とし、抜本的な見直しをしないまま進めていくことになりました。また、議会の新庁舎特別委員会においては、今から見直しの議論をしていると、国の有利な起債（公共施設等適正管理推進事業債）を活用する期限に間に合わなくなるとして、市の説明を了承し、基本設計の議論を終結させ、実施設計に進むことになりました。

どうしますか？一旦立ち止まって、施主である皆さん（市民）が納得いくまで設計士（市）と話し合いをし、合意をした上で着工するのが当たり前ではないでしょうか。私は、新庁舎建設そのものに反対しているわけではありません。老朽化した市庁舎は、当然、建て替える必要があると認識しております。新庁舎の施主は、誰なのでしょう。当然市民だと思えます。今回、基本設計の段階になって初めて150億円かかるとわかったわけですから、その時点で、施主である市民への丁寧な説明や、合意を得るための十分な議論を行うことが当たり前ではないでしょうか。しかし、この度の新庁舎整備事

業では、先ほどお話ししました公適債のバスに乗り遅れたら大変なことになる、という理由で、市民への説明や相談もままままに、今年12月には現地建て替えによる新庁舎建設工事に着工しようとしています。

私は、大事なことが置き去りにされていると感じています。それは、市民への説明責任を果たすことに他なりません。

施主である市民の意思が十分に反映されないまま事業を押し進めれば将来禍根を残すことになりはしないだろうか。

令和の時代にあつてなお、市民不在のまま意思決定がなされ、それがまた新しい時代にも引き継がれる、本当にそれで良いのか、受け入れがたい思いでした。

令和2年度の当初予算には新庁舎建設事業費が計上され審議されましたが、自らの信念に照らし合わせると、どうしてもこの議案に賛成することが出来ませんでした。

コロナ禍の今こそ変革のタイミング

また、コロナ禍により、世界はかつてない速さで変化し、テレワークやオンラインなどデジタル化が一挙に進み、社会のあり方そのものを劇的に変えようとしています。この流れは不可逆的であり、当然、市民サービスのあり方にも影響を及ぼすものです。市民の皆さまにわざわざ市役所まで足を運んでいただくなくても良い市民サービス、いわゆる「手のひらの市役所」を追求しなければなりません。

コロナ禍を「変化の機会」と前

向きに捉え、コロナ禍前に立てた計画を硬直的に進めるのではなく、今、立ち止まり、コロナ禍後の新たな市民サービスのあり方、庁舎のあり方について、柔軟な発想で検討し、前向きに適応していくところだが、次世代に対する我々の責任だと思えます。

次世代に残すべきもの

また、新庁舎問題は、単に事業費の多寡や建設場所の問題にとどまるものではなく、民主主義の根幹に関わる政策決定のあり方が、機能不全に陥っているように感じます。

我々が、次世代に継承していくべきものは、建物そのものだけではなく、建設にあたり、どのような政策決定が行われたのか、その

プロセスの透明性と合理性ではないでしょうか。

松江市においては、人口の減少、少子高齢化に直面しています。最近の調査によると、その要因は、若者の流出、特に若い女性の都市部への流出であることが分かりました。

結論ありきのまちに、若者は魅力を感じるのでしょうか。

議論をさけるまちに、イノベーションは生まれるのでしょうか。行政のつくったストーリーありきの従来型の政策決定から脱却し意思形成の過程においてこそ、市民の多様な価値観や良識が反映されるような、市民と共にストーリーをつくりあげていく、新たな政策決定のあり方が求められていると思います。

自分たちでこのまちをつくって
いけるという実感や責任感をもつ
ことで、地域への興味や愛着も生
まれ、活力ある松江の展望が拓け
るのではないのでしょうか。

松江市政のパラダイムシフトを

さて、今、新庁舎整備事業の一
時中断を求める、住民投票の実施
に向けた署名活動が行われており
ます。

私は、Matia「市民のための新
庁舎建設を求める会」の趣旨に賛
同しております。

市民から委任を受けた市長や私
たち議員は、市民からの疑問の声
を頭ごなしに否定するのではなく、
時代に相応しい政策決定のあり方
へ転換する機会とすべきだと思
います。

それが、令和の時代に求められ
る改革であり、パラダイムシフト
を成し遂げることが、令和の時代
の議会人である私の使命だと思っ
ております。

ノーベル経済学者のジョセフ・
スティグリッツ氏は、「行動しない
ことは、けっして許されるべきで
はない。」「子どもたちに何と説明
したらいいのだろうそれを知って
はいたが、しかし何もしなかった、
などと言えるというのか。」と述べて
います。

どのようなまちを次世代へ残し
ていくかは、私たち市民次第です。
皆さまはどのようにお考えでしょ
うか。議論を深め、忌憚の無いご
意見をお聞かせいただければ幸い
です。

2020年8月盛夏

松江市政議会議員 出川桃子